

こうちふるさと寄附金の実績と活用状況のご報告

1 寄附金の実績

平成21年度には、「こうちふるさと寄附金」として、204件、9,674,487円のご寄附をいただきました。改めて感謝申し上げます。

2 寄附金の活用状況

平成21年度にいただいた寄附金は、下記の平成22年度の事業（3分野7事業）に活用させていただきました。

<分野1 こうちの「山」「川」「海」の環境を守り育てる>

○清流保全計画指標モニタリング事業（予算額714千円、決算額714千円）

物部川と仁淀川の水質調査をそれぞれ年4回実施することで、物部川清流保全推進協議会及び仁淀川清流保全推進協議会での取り組みの達成状況を把握する指標を収集するとともに、水温、透視度及び水生生物などの、より人の感覚に近い指標による評価手法等により、流域の小学生らが環境学習の一環として取り組むことが出来るようにしました。



○清流基準モニタリング事業（予算額593千円、決算額593千円）



国の定める環境基準では高知県内の河川のように水の汚れが非常に少ない清流を評価できる水質基準が制定されていないため、その清らかさを人間の感覚に近いもので表現することを目的として、四万十川流域の学校等で、身近な川の環境調査のレクチャー・実技指導等を行いました。流域住民等が自ら調査を行うことで、清流を守ろうとする思いを深め、広げていくことにつながりました。また、学校等及び高知県環境研究センターが水生生物採取調査とデータ測定を実施し、その結果を環境共生課がホームページで公表しました。

(URL: <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/shimanto-kijyun.html>)

○地球温暖化対策推進事業（予算額997千円、決算額769千円）

子どもたちの環境学習の際に、環境問題についての知識を深めることの出来る環境を提供するため、太陽光調理器ソーラークッカーや水力発電実験器などの学習機材を環境活動支援センターえこらぼなど3施設に平成22年7月から配備しました。配備については、携帯電話向けサイトの開設や県小中学校課メールマガジンなどにより、県内全小中学校に周知を行い、平成22年度は56回の器材貸し出しを行いました。



○環境美化推進事業（予算額1,127千円、決算額666千円）

清潔で美しい県土に暮らすことで、教育や治安はもとより、モラルに好影響を及ぼし、ひいては産業振興や観光の活性化に結びつけることを目的として、2月の県民一斉美化活動を中心に県内各地で美化活動を実施しました。また、啓発用ポスターを作成し、協力企業等の事業場や公共施設に掲示したほか、美化活動後には花壇新設などの美観創出及び啓発活動を行いました。



<分野2 ふるさとの文化と子どもたちを守り育てる>

○ふるさと教育推進事業（予算額2,247千円、決算額2,235千円）

ふるさとへの理解を深め、郷土愛を育むため、地域で専門性や広域性を生かして活動している団体に助成を行っています。高知県連合婦人会では県内3箇所の札所において、小学生とともにお遍路さんへの接待を行いました。また、郷土の偉人や歴史学習のため、県内の小学生に学習教材「坂本龍馬を知っちゃう？」の配付や龍馬検定を実施し、知識・関心の向上に努めました。



○学校図書館活動推進事業（予算額1,450千円、決算額1,450千円）



学校図書館活動推進校の研究成果をもとに、小学生、中学生用の必読図書リストブックを作成し、公立小・中学校の全児童生徒に配付しました。このリストブックでは読み物、自然科学、社会科学、郷里高知に関するものなど幅広いカテゴリーを設けており、県外の学校司書や司書教諭に注目されるなど高く評価されています。また、学校では保護者向けに啓発の通信を発行したり、学校図書館で掲載本を紹介するなど、児童生徒の読書活動の拡大が図られています。

<分野3 龍馬がふるさと「高知」を盛り上げる>

○土佐・龍馬であい博推進事業（予算額2,904千円、決算額2,904千円）

「土佐・龍馬であい博」の開催にあわせて、観光客を県内各地の観光地に招き入れるために「公式観光ガイドブック」を作成しました。本県の魅力を全国に発信することで、観光客の誘致促進及び高知県経済の活性化につなげるとともに、県内各地の地域資源を生かした滞在型・体験型観光の推進への取り組みを進めました。

